



忙しい子どもたち

忙しい、忙しい…。文字から読み取れるように、まさに心を亡くしてしまいう。忙しいのは大人だけではない。子どもたちも、みんな忙しい、忙しい…。教会なんか行くヒマ？ ないんだって。

土曜日も日曜日もクラブ活動やいろんなグループの集まりなどがある、主日のミサ参加も年々難しくなっているようだ。巡回の豊津教会は小学校から歩いて三分もかからない所にあるので、金曜日の午後の教会学校には対象となる子どものほとんど全員が参加している。

行橋教会はそういうわけにはいかない。範囲も広いし、信者

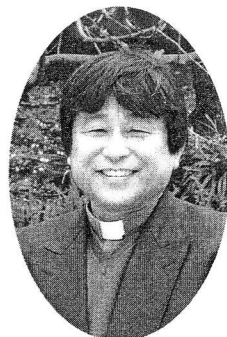
の子どもが通っている小学校の校区は十程にもなる。全員が揃うのがとても難しいので、小学生のための教会学校は二年前から月に一度にした。第三日曜日の九時から「子どもとともにささげるミサ」をして、そこから教会学校が始まる。それまでは毎週日曜日のミサ後の一時間だけ。子どもたちは弁当を持って参加する。二時半まで教会で一緒に過ごす。まずミサ。いろんな役割分担をしてミサの奉仕をする。ミサ奉仕者(侍者)、聖書の朗読、聖歌の伴奏、共同祈願、奉納など。最近は答唱詩編の詩編を独唱できるようになった。

教会学校の様子



ミサが終わると少しおやつをして、まずは遊び。ミサに続いて

て聖歌の練習をするときもあるけど。広い園庭での遊びが終わ



やまもと まこと 山元 眞 神父

ると、いくつかのグループに分かれて「お勉強」。カリキュラムは典礼暦に従って組まれている。ミサで朗読された聖書の言葉や司祭の説教の内容を振り返る。小学校一年生は翌年の春の初聖体の準備。それから皆で弁当を食べて、午後の部に入る。「お勉強」の続きをしたり、皆で作品作りをしたりすることもある。

教会学校の行事としては、夏のデイキャンプや秋の遠足。毎年十一月三日前後に福岡の大神学院で開かれる「召命の集い」に参加。そのための作品作り。クリスマス前の街頭募金。クリスマス会。大きな行事は多くはないが、月に一回だけの集まりな

ので、それが行事のようになってにぎやかな雰囲気がある。

教会学校を月一回にしてよかった点がいくつもある。

子どもの集まりがよくなった。年間十二回。毎週するよりも回数は減ったが、時間は変わらない。日にちが決まっているので子どもたちや大人のスケジュールが合わせやすい。毎週にすると来る子どもがまばらで、来たり来なかったりになる。スタッフの準備もしやすくなった。

ミサに続いての教会学校は精神的にも身体的にもきついものがあるが、月に一回だと、休み時間や遊ぶ時間もあるし、おやつも弁当もあるので、ゆったりと落ち着いた時間が持てる。歌の練習にも、何かの作品作りにもじっくり取り組める。いろんなことをしながら互いの交流を深めることができる。さまざまな校区から集まっているので教会学校活動の機会に、互いの一致を強めることもできる。

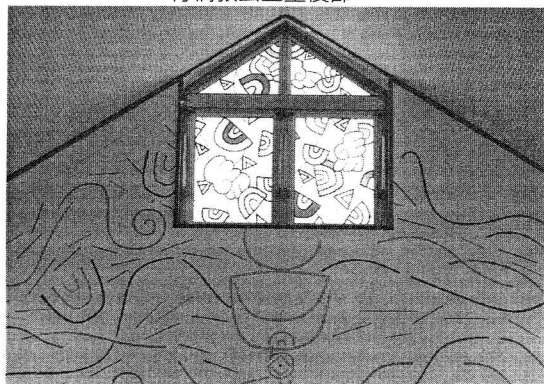
このようにしたら、他の週のミサに来なくなるのではないか、という心配？があるかも

しれない。月四回から一回に変えても主日のミサ参加者数には変わりはないようだ。来る人は来る。ただ、最初にも触れたように、とにかく子どもたちも忙しくなっている。月に一度は地域の清掃などもあるみたいだし、育成会の行事もあったりする。クラブに入っている子どもは試合もある。それはそれで大切なこと。「信者である」のは何もミサのときだけではない。

いつ、どこでも信者として生きることが大切なこと。そのために共にミサを捧げて生きる力をいただくことが大切なのだ。毎週みんなが集まることができれば、それにこしたことはないし、そうあつてほしいと思う。だが、それは、今はほとんど不可能な時代だ。子どもを取り巻く環境をよく知り、よく理解し教会が今の時代にあつて、どのように子どもたちに奉仕できるのかを考えないといけないのではないだろうか。

「ぜったいに…」と言って、そのものごとの大切さを教えてきたらいいがあるが、「絶対的」な

行橋教会聖堂後部



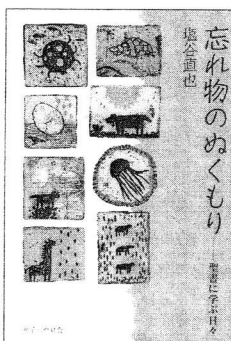
ものはそんなに多くはない。「絶対」にミサに来なくてはならない」と指導するより、神さまとの関わりが絶対的に大切で、その関わりをどのような形で保つていくのかを共に考えるほうがいいと思う。たしかに主日のミサ参加は大切なことではあるがそのようにわかつていても「出来ない」ことが多いのが今の時代。子どもたちに対しては「ミサに来なくてはいけない」というより、「ミサに来てほしい」という想いを伝えるように心がけている。

忘れ物のぬくもり

——聖書に学ぶ日々

塩谷直也 著

四六判・240頁・1,890円(税込)



警官だった父の「事件簿」を愛読し、毎日仲間に語り聞かせていた少年は今、「事件簿」を「聖書」に持ち替え、人間の罪深さを鋭く温かな視点で語り続ける。

「もてなしてほしい」「発光するあなた」「傷」という神秘「行かないで」ほか。月刊「あけぼの」誌連載のエッセイ43編。



女子パウロ会

東京都港区赤坂8-12-42

TEL.03-3479-3943 FAX.03-3479-3944